



廣部 真造 議員

がん検診の現状と今後の課題解決について

問 がん検診の現状と今後の課題解決について

答 ターゲットを絞った受診勧奨・再勧奨に取り組み受診率の向上に努めます。

問 国のがん検診の目標は50%以上となっているが、市の現状と、その原因をどのように考えているか。

答 健康福祉部長

平成28年度と令和2年度
の受診率を比較しますと、胃
がん検診は51%から4%
に、大腸がん検診は15%か
ら11.6%に、乳がん検診は
22.4%から16.5%に、子
宮頸がん検診は19.1%か
ら14.3%に、肺がん検診は
2%から1.4%に低下して
います。市民の方からは、が
ん検診の受診に対して「時間
や手間がかかる」「特に気に

なる症状がない」「検査が苦
手」などといった声をお聞き
しています。

問 初回受診者への受診勧奨の
取り組み状況は。

答 健康福祉部長

子宮頸がん検診は21歳の方
に、乳がん検診は41歳の方に、
無料クーポン券を送付してい
ます。また、胃がん・大腸がん
肺がん検診の初年度対象とな
る40歳の方全員に個別勧奨通
知を行い、受診のきっかけや
定着化につながるよう啓発に
努めています。

問 定年などの事由で退職され
検診機会を作る必要が生じた

方への取り組み状況は。

答 健康福祉部長

退職などにより国民健康保
険に加入される方に特定健診
と併せてがん検診の受診案内
を送付しています。

問 厚労省の報告では、未受診
者への受診勧奨と再勧奨で受
診率が向上している。今後取
り組む予定は。

答 健康福祉部長

現状は、勧奨時期が11月で
再勧奨が行えていません。今
後は5月ぐらいに勧奨し、秋
頃には再勧奨という方法を考
えています。

問 中学校でのがん教育で、が
ん検診の重要性やきっかけづ
くりにつながるような伝え方
の工夫が必要と考えるが、検
討はしているか。

答 健康福祉部長

子どもさんから親御さんに
対して学校で習われたことを
お伝えいただくことは、保護
者の方に響くものと考えてい
ます。教育委員会とも連携を
取り、そういった方法も検討
させていただきます。



その他の質問

○空き地の適正な管理のため
に新たな取り組みについて